

# 茨城経協

Ibaraki Employers' Association

<https://www.ikk.or.jp> Email info@ikk.or.jp

一般社団法人茨城県経営者協会



茨城経協

## CONTENTS

- 01 年頭挨拶**  
会長 笹島律夫  
茨城県知事 大井川和彦  
経団連会長 筒井義信  
副会長 高橋日出男／幡谷史朗／関正樹／家次晃／  
塩谷智彦／安光和典／塙田英明  
専務理事 加藤祐一
- 12 委員会報告**  
科学技術委員会／青年経営研究会
- 14 支部だより**  
常陸・那珂地区支部／水戸地区支部
- 16 新会員のご紹介(2社)**
- 17 令和8年度定時総会開催(案)**
- 18 今後の事業(視察会、研修会、交流会等)のご案内**
- 19 〈寄稿〉偏屈爺の甘辛放談⑩**  
「2026年波乱の幕開け=トランプ政権の暴挙に世界が震撼」  
〈茨城新聞社・元論説委員長 小沼平氏〉
- 20 〈寄稿〉25卒新入社員の今と、採用活動企業の26卒・27卒採用人数**  
((株)マイナビ 茨城支社長 木村純弥氏〉
- 21 〈寄稿〉揺れ動く国際情勢と2026年の展望:茨城から世界へ踏み出すための針路**  
〈日本貿易振興機構(ジェトロ)茨城貿易情報センター所長 河内章氏〉
- 23 〈寄稿〉NPO情報 Vol.302**  
〈茨城NPOセンターコモンズ代表理事 横田能洋氏〉
- 26 鹿島アントラーズJ1優勝、水戸ホーリーホックJ2優勝**

経営者協会ホームページ  
<https://www.ikk.or.jp/>



## 経営環境の変化を力に、 会員と地域の未来を共に創る



会長 笹島 律夫

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

会員の皆様におかれましては、本年が更なる飛躍の年となりますよう心よりご祈念申し上げます。

昨年を振り返りますと、女性初となる高市早苗内閣総理大臣が誕生し、株式市場は高市政権の経済政策への期待感を背景に、史上初の5万円台に到達最高値を更新しました。

また日本銀行は、12月の金融政策決定会合において、政策金利を0.5%から0.75%へと引き上げました。これは1995年以来約30年ぶりの水準であり、今後も経済・物価情勢を見極めながら、利上げを継続する方針が示されています。

本県に目を向けてみると、スポーツ界において顕著な躍進が見られました。大相撲では、大の里が2場所連続で優勝を果たし、師匠である二所ノ関親方(元横綱・稀勢の里)以来、8年ぶりとなる国内出身横綱の誕生に日本中が歓喜に沸きました。

Jリーグにおいては、鹿島アントラーズがJ1リーグで優勝し、水戸ホーリーホックがJ2リーグで優勝を果たしました。本県所属クラブによるダブル優

勝は、日本のサッカー界において歴史的快挙と言えるでしょう。

これらの躍進は、指導者の卓越したマネジメントと明確な戦略のもと、選手・スタッフ・サポートーからなる組織全体のパフォーマンス向上、そして継続的な努力の積み重ねが結実した成果であると考えられます。また、これらの成果は、全てのステークホルダーが一体となって共通目標に向かうことで、組織は最大のパフォーマンスを発揮できるという示唆を与えてくれました。今後は、スポーツを起点とした地域経済への波及効果を生み出し、県内ビジネス全体の活性化にも寄与することが期待されます。

さて、現在の企業経営を取り巻く環境は、深刻な人手不足に加え、物価高騰や円安進行によるコスト構造の悪化、さらには後継者不足に起因する事業承継問題など、複数の経営課題が同時に並行で顕在化しています。これらの課題は、賃上げ要請の高まりや労働市場の流動化とも連動しており、限られた経営資源をいかに最適配分し、持続可能な事業運営を実現するかが、経営者にとって極めて重要な経営

判断となっています。

このような環境下において持続的な成長を実現するためには、多様な人材を戦略的に活用する人的資本経営の推進や、DXを通じた業務プロセスの高度化および生産性向上が不可欠です。その実行を着実に推進するためには、経営層による強力なリーダーシップが、これまで以上に求められているものと考えます。

協会の事業につきましては、本年、現行の3ヵ年中期計画から、新たな3ヵ年計画“第11次中期運営要綱”を策定し、会員の皆様、そして地域の皆様から真に求められる経済団体として、新たなステージへと飛躍する重要な年度を迎えます。基本方針である「つながりと体験から生まれる“実感”を原動力に、会員と地域の未来を共に創ります」のスローガンのもと、魅力ある事業を企画し、会員の皆様のお役に立てる施策を推進してまいります。

本年も引き続き、協会活動にご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

(株)常陽銀行 取締役会長

# 新年のごあいさつ

茨城県知事 大井川 和彦



新年あけましておめでとうございます。

皆様には新春を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

一般社団法人茨城県経営者協会の皆様方におかれましては、日頃から創造的で活力ある企業経営の実現に向け、会員企業のニーズを踏まえた研修会やセミナーを開催するほか、台湾経済二団体と経済交流に関する覚書を締結し、新たな海外市場の開拓に向けて取組を進められるなど、本県の産業・経済の発展にご尽力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、昨年は、賃上げの動きが広がるとともに、景気に緩やかな回復傾向が見られた一方、米国の関税政策による世界経済の不透明感の高まりや、長引く物価高、人手不足が本県の産業・経済に大きな影響を与えた1年でした。

時代は今、加速度的に進む人口減少をはじめ、国際秩序の変容や気候変動による影響の拡大、人工知能の驚異的な進化などにより、大きな変化の只中 있습니다。

私は、知事就任以来、この激動の時代を見据え、「挑戦」「スピード感」「選択と集中」の3つの基本姿勢を徹底し、「活力

があり、県民が日本一幸せな県」の実現に向けて経済の活性化などに全力で取り組んできました。

その結果、企業誘致では県外企業の立地件数が8年連続で全国第1位となったほか、県産品の海外展開では農産物輸出額が就任前の24倍に拡大しました。また、観光消費額が過去最高額を3年連続で更新し、メディア掲載による広告換算額は就任前の4倍以上に増加しました。

さらに、県立中央病院と県立こども病院の統合を含む水戸保健医療圏の病院再編に向けた具体的な検討に着手したほか、障害者支援施設「あすなろの郷」の再編整備が完了するなど、様々な面で成果を上げることができました。

こうした成果を背景に、2022年度の県民経済計算の推計結果において、本県の1人当たり県民所得が3年連続で全国第3位となったほか、人口の「社会増加数」は近年全国上位で推移し、東京都や大阪府などの大都市圏に次ぐ「社会増」が定着しつつあるなど、本県の潜在能力の開花に繋がる変化が着実に芽生えてきております。

本県の潜在能力を大きく開花させ、環境が激変する時代にあっても本県を更に飛躍させて

いくには、現状維持にしがみつくことなく、「過去の延長線上に未来はない」との考え方のもと、これまでの改革路線を更に強力に進めていくことが必要です。

このため、現在、策定を進めている新たな総合計画におきましては、「新しい豊かさ」「新しい安心安全」「新しい人財育成」「新しい夢・希望」のチャレンジをさらに進化させるとともに、特に、他地域にはない特長を創りだすための差別化、将来の発展を見据えたインフラへの投資、多様な人材が活躍できる社会の実現に力を入れ、「茨城に住みたい、住み続けたい」人が大いに増える、「活力があり、県民が日本一幸せな県」の実現を目指してまいります。

本年も、変化を恐れず、新たな挑戦を続けてまいりますので、皆様方におかれましては、経営者の相互啓発や労使の健全な関係構築を通じて、本県経済の更なる成長と将来にわたる力強い発展に向け、なお一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様にとりまして、本年が実り多き素晴らしい一年となりますことを、心よりお祈り申し上げます。

# 「投資牽引型経済」への転換を目指して —経団連会長新年メッセージ—



一般社団法人 日本経済団体連合会 会長 筒井 義信

謹んで新年のお慶びを申し上げる。

昨年は、戦後常々と築かれてきた国際秩序が大きく揺らぐ下で、わが国を取り巻く政治・経済情勢の枠組みも変わり、大転換の年であった。こうした中、10月に発足した高市政権は、「危機管理投資」と「成長投資」による「強い経済」を目指して、一気呵成に取り組まれている。

今、我々は将来世代に明るい未来を残せるか否かの岐路に立っている。企業自らがマインドセットを転換し、積極果敢に設備投資、研究開発投資、人的投資を拡大していくことが、かつてないほど重要となっている。経団連は、「投資牽引型経済」への転換に向けて先導的な役割を果たし、わが国経済の潜在成長力の強化に向け、次の主要政策分野に注力していく所存である。

第1は、絶え間ないイノベーションの創出を通じた「科学技術立国」の実現である。政府の掲げる「新技術立国」の具体化を図るべく、官民一体となって研究開発投資を拡大していく。

併せて、司令塔強化による政策の強力な推進を働きかけていく。

第2は、税・財政・社会保障の一体改革の推進である。政府が設置を表明した国民会議において、給付と負担のあり方を含めた議論が本格化することが期待される。経団連としても積極的に関与していく。

第3は、地域経済社会の活性化である。各地域での広域連携に向けた取組みと連動しつつ、高市総理の掲げる「地域未来戦略」の下で実効性のある施策が展開されることが重要である。経団連としても、政府と連携しつつ、「新たな道州圏域構想」の実現を目指す。

第4は、労働改革である。労働移動の積極的な推進等を通じた生産性の向上を図りながら、賃金引上げの力強いモメンタムの「さらなる定着」に取り組む。併せて、働き手の健康確保を大前提に、柔軟で自律的な労働時間法制の見直し、とりわけ、裁量労働制の拡充の実現を政府に働きかけていく。

第5は、自由で開かれた国際経済秩序の維持・強化である。

ルールに基づく公正な貿易投資環境の実現を目指してまいりたい。

第6は、安価で安定的なクリーンエネルギー供給の確保とグリーントランステーナー・エントラーンスの推進である。「第7次エネルギー基本計画」の具体化と実現に向けて、フォローアップを継続する。

第7は、持続的な成長に向けたコーポレートガバナンス改革である。企業が中長期的観点から自律的かつ主体的に成長投資を行うことのできる制度整備を働きかけていく。

また、成功裡に閉幕した大阪・関西万博のレガシーを継承し、2027年国際園芸博覧会(GREEN × EXPO 2027)の成功に向けて、万全を期してまいりたい。

本年も官民連携を一層強固なものとしつつ、必要な政策の機動的かつ力強い推進を通じて、将来世代への責任を果たす所存である。民主導による「強い経済」の確立に向けて、皆様のご理解とご協力をお願い申しあげる。

# 続・街道旅日記－長崎街道から鹿児島へ、歩いて辿る歴史の道

副会長 高橋 日出男



明けましておめでとうございます。

昨年は東海道、中山道、山陽道・西国街道(下関～大阪～京都)、奥州街道(日本橋～三厩)を歩いた旅の記録を、「街道旅日記(70歳からの挑戦)」と題して、日刊工業コミュニケーションズにて刊行いたしました。編集者の協力の下、全文を見直し、編集者と言葉の選び方についてやり取りを行いました。初めての経験であり、貴重な体験であった。

2025年3月1日、福岡県小倉市から飯塚市、筑紫野市山家、佐賀県佐賀市、武雄市、長崎県大村市から日見峠を越えて長崎市に入り、翌日、雲仙で宿泊し、多比良港から有明海をフェリーで渡り、長洲港で下船。西南戦争の激戦地、一の坂、二の坂、三の坂を通り、熊本市田原坂西南戦争資料館を行った。熊本城は2016年4月に最大震度7を記録した熊本地震で、重要文化財を含む多くの建造物や石垣が甚大な被害を受け、鉄筋コンクリート造りの天守閣自体は損傷が軽かったものの、瓦がほとんど落下し、柱も損傷したという。特に石垣の崩落が大規模で、宇土櫓などの櫓も倒壊・破損し、復旧には長い年月と費用がかかるとのことでした。熊本城を見学後、宇城宿、佐敷宿、出水宿、向田宿、伊住院宿、南さつま市、知覧特攻平和会館を経て、15日を要しましたが、無事鹿児島に到着し、翌日は休養を兼ねて観光を行った。

初日、長崎街道の起点である小倉常盤橋に行くと、伊能忠敬の測量開始200年を記念した顕彰碑が建立されてあった。飯塚市は八幡製鉄所の立地決定に大きな影響を与えた筑豊炭田(筑豊炭鉱)に隣接しており、街道沿いに日本の近代化を支えた日本初の銑鋼一貫製鉄所の面影が所々に散見された。

2日目は雨の中、内野宿に向かつたが、1時間程違う道を歩いてしまった。スマートフォンが雨に濡れて誤作動したようだ。冷水峠を越えて内野宿を経て、山家宿に入ると昔の宿場町の風情が残っていた。一日中、雨と強風に見舞われながら、何とかホテルに到着した。

3日目、途中、吉野ヶ里遺跡を経由して佐賀に向かった。

4日目、佐賀市の長瀬町から西に向かう長崎街道沿いは町人や職人の街で、中町、多布施町、伊勢屋町、六座町、長瀬町、八戸宿と延々と続いており、鉄砲座跡、金銀座跡、木工座跡、煙硝座跡、縫工座跡の標識が建てられていて、往時を偲ばせる。牛津宿、小田宿を経て、佐世保線に合流、線路沿いを並行して進むと「高橋駅」があった。自分の氏と同じ高橋なので、驚いた。調べてみると、佐世保線の高橋駅の名前の由来は、駅の所在地である武雄市朝日町甘久に「高橋」という地名があることからきているという。高橋という地名は、古くから存在し、高くかけ渡された橋を意味する言葉に由来するそうだ。駅名の由来となった「高橋」という地名は、古くは高く架けられた橋を指す言葉から転じて、地名として定着したと考えられるのこと。

5日目、武雄温泉駅前のホテルを出発し、嬉野宿、彼杵宿を通って、大村湾を望む大村宿に入った。

6日目、長崎街道終点地の長崎を目指した。市内に入る前の日見峠は急こう配できつかった。今まで歩いて旅した時の夕食は簡単に済ませていたが、途中友人3人が合流したこともあるて、かつて長崎の丸山遊郭内にある創業300年を超える歴史を持ち、幕末に活躍した勝海舟、坂本龍馬、シーボルトなどが利用した「史跡料亭『花月』」を予約してあった

ので、足を速めた。

7日目、雲仙市のビジネスホテルに宿泊し、8日目、有明海をフェリーで渡り、西南戦争の激戦地である田原坂の戦いの一の坂、二の坂、三の坂に行き、熊本市田原坂西南戦争資料館を見学した。西南戦争については書籍である程度理解していたが、実際に現地を見ると、その理解をはるかに超えるものだった。しかし、日本最大の内戦が終結し、近代日本の歩みが始まったことを思うと、複雑な気持ちになった。

9日目、熊本城を見学後、宇城城址を見学、初めてコンテナホテルに泊まった。

10日目、6時に出発したが、濃霧で1メートル先が見えない。時々、車が通ると、ヘッドライトの明かりで周りの状況をつかむようにした。40分程でうす暗い程度になつたので、安心して歩いた。

11日目、出発してから約1時間で旧薩摩街道津奈木太郎峠を越えて、水俣市に入った。水俣市に入ると西南戦争の史跡が多かった。薩摩軍が熊本城から撤退した時、西郷隆盛は人吉街道、霧島連山を経て薩摩に行った。もう一つは東シナ海側の水俣市を通りて撤退した薩摩軍が多いと思われる。

12日目は薩摩川内市の向田宿、13日目は南さつま市、そして14日目には鹿児島に到着し、15日目は蒲生の里に行った。関ヶ原の戦いにおいて、薩摩軍が撤退戦を行った時、8割の戦死者を出しながら、薩摩に帰還した。その時の戦死者が蒲生衆であったと云われている。

2026年は旧山陰道(京都丹波口～福地山～鳥取～島根～小郡)を歩いて旅する予定です。

(株)協立製作所 代表取締役会長

# 変わる時代、変わらぬ心

副会長 柏谷 史朗



新年明けましておめでとうございます。

今年は、令和8年、平成38年、昭和101年、大正115年、明治159年となります。いつの時代も、古き良き過去を懐かしむ声が聞こえてまいります。明治時代には、江戸時代の人々が「帯刀できた時代は良かった。」と語り、大正時代には、明治の方々から、「ハイカラにはついていけない。」と、昭和時代には、明治・大正の方々から、「今の若い人は理解出来ぬ。」と、そして時代は平成・令和へと移り変わり、今を生きる私達もまた、新たな時代の入口に立っております。

私事で恐縮ですが、私の父は昭和9年生まれ、現在91歳です。戦中戦後の過酷な時代を生き抜いてまいりました。父からは、昭和一桁生まれならではの「もったいない」精神を教えられました。

電気の無駄使いは、頻繁に注意されました。人がいない部屋の電気は必ず消す事。入浴の時間は極力短くし、水を無駄にしない事。洗髪も身体を使う石鹼でした。勿論、小さくなったり石鹼は赤いミカンのネットに入れ、最後の一片まで使い切りました。身体を洗う道具は乾燥ヘチマで、馴染むまではかなり硬く

使いづらかった記憶があります。

私が幼い頃は、焼いた魚の骨がよく食卓に並びました。今思えば、無駄なく良質なカルシウムを摂取できたのだなと思います。井戸水が当たり前の時代で、夏場には、浴槽に冷たい井戸水を張ってスイカを冷やしていました。今の様なショッピングセンターは存在せず、お肉は肉屋さん、お野菜は八百屋さん、お魚は行商の方から購入していました。勝手口にあった井戸端が即席の調理台となり、井戸水を使って綺麗にさばいて頂きました。

冬の夜は、寒さ対策として湯たんぽを使用しました。熱湯を注ぐので布カバーが必須でした。読み終えた新聞紙は、万能包装紙でした。お弁当の包みに使えば、多少の汁こぼれも難なく吸収してくれましたし、宿題の「押し花」作成にも重宝しました。

鰯節は、四半身の「枯節」から削るのが当たり前でした。ガリガリと大工さんの様にかんな掛けをし、削り節にするのが子供の役割でした。今でも、あの香ばしい匂いが甦って参ります。

時は流れ、現在ではそうした光景を目にする事は、無くなりましたが、この「モノを大切にし、資源を無駄にしない」「自

然とともに生きる」という価値観は、まさに現代のCSR活動に通ずるものだと思っております。

人間が科学を進歩させると技術革新が起き、生活に新しい風が吹きます。自転車は自動車に変化し、扇風機はエアコンに、火鉢は石油ファンヒーターに、タイプライターはワードプロセッサーに、手紙は電子メールに、電話は固定から携帯に、そして、「スマートフォン」の誕生により全世界がSNSでつながる時代に突入しました。

便利な道具に囲まれた時代だからこそ、大切にしなければならない事は、それらを使いこなす人々の気持ちだと思います。これからも「もったいない」精神を受け継いで、決して華美になることなく、限りある資源を大切に使い、環境に配慮しながら、企業活動を続けて参ります。

今年も、経営者協会に入会して有意義であると感じて頂ける様、「お役立ちの精神」で、会員皆様の企業価値を上げる事ができます様、様々な講演会・研修会や情報交換会・懇親会を開催して参ります。

今年も、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

**茨城トヨタ自動車(株)  
代表取締役社長**

# 高度化する地域課題の解決に向けて

副会長 関 正樹



新年明けましておめでとうございます。

昨年は国際的な資源価格の変動や物流網の制約が続き、国内でも物価上昇が長期化する等、企業活動に影響が広がった一年でした。また、外部環境の不確実性が高まる中、企業には人材確保や生産性向上といった課題への対応が一層求められています。こうした全国的な状況の中で、各地域では課題がより多様化かつ複雑化しています。資源価格の変動は燃料価格や供給リスクへの懸念を高め、人材確保の難易度も年々高まり、都市部との格差が拡大しています。加えて、デジタル化への対応は多くの企業にとって喫緊の課題となっており、地域経済や企業経営を取り巻く環境は絶えず変化を続けています。

まずエネルギー分野では、中東情勢の緊張やOPECプラスの協調減産、LNG市場の逼迫等により原油・天然ガス価格の不安定な状況が続きました。政府は燃料価格の急激な変動による影響を緩和するため、補助制度による価格支援を実施しつつ、ガソリン税の暫定税率を昨年末に廃止し、軽油引取税の暫定税率も本年4月1日に廃止する方針です。こうした動きを受け、提供価格の安定化が期待される一方で、原油市況や為替の影響は依然大きく、地域へ安定した価格でエネルギーを届けるためには継続した努力が求められます。

弊社としても業界全体の動向を注視しながら、調達価格の変動に対応し、地域を支えるエネルギー供給事業者として、小売価格の安定化とエネルギーの安定供給に取り組んでいます。あわせて、地域が主体となってエネルギーを持続的に確保・活用していくことの重要性が高まる中、その一環としてPPAモデルによる茨城大学へのカーポート型太陽光発電設備の導入など、再生可能エネルギーの活用も進めております。今後も法人・個人向けのサービスを通じ、地域のエネルギー基盤の充実に努めて参ります。

人材面では、生産年齢人口の減少により採用競争が激化しており、地元企業では、限られた人員で事業を維持・発展させていくことが求められています。その対応として、AIをはじめとするデジタル技術の活用を含め、各社の状況に応じた多様な選択肢の中から、人材の量・質の確保と生産性向上の両立を図る新たな取り組みが重要となっています。

こうした状況を踏まえ、弊社では人材確保と生産性向上の両面を支える取り組みを進めています。昨年8月には、ベトナムに続く海外2拠点目として「SEKISHO India Private Limited」をインド・ハリヤナ州グルガオンに設立しました。若年人口が豊富なインドは日本企業にとって重要な人材パートナーであり、現地法人の中心事

業となる日本語教育、採用支援、貿易、コンサルティングサービスを通じ、地域企業を含む皆さまの人材確保・教育を多面的に支援して参ります。

さらに、新たな事業領域としてデータ分析事業にも取り組んでいます。昨年5月に筑波大学体育系・川村卓教授と共同で「株式会社 Invictus Sports」を設立し、同年9月には筑波大学敷地内に野球・ソフトボール室内練習場「Invictus Athlete Performance Center」を開設しました。スポーツ科学に基づく指導・育成・研究を通じて「困難を乗り越える力」を育むとともに、データ活用の知見を地域課題の解決へ繋げて参ります。

このように地域課題が一層高度化する中で、私たちが大切にしているのは、お客様の悩みを理解し解決すること、理想とする将来像を共有すること、その実現に向けて共に考え実現していくことです。地域ごとに異なる産業構造や生活環境に寄り添い、弊社の多様な商材・サービスを総合的に活かし、自治体・教育機関、お取引先様との連携をさらに深めることで、最適な価値提供に努めて参ります。

末筆ながら、当協会の活動が会員企業の皆様の発展に寄与し、さらなる飛躍の一年となりますことを祈念し、新年のご挨拶といたします。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

関彰商事(株)代表取締役社長

## 四海兄弟



副会長 家次 晃

新年あけましておめでとうございます。本年も宜しくお願ひ申し上げます。

新しい年を迎えると、「今年は何年だ?」との問い合わせにその年にあたる十二支を答えてきましたが、たとえば今年の場合は「うまどし」、漢字で書くと「馬」ではなく「午」となっている、このことに何の疑問も持たずに生きてきてしまいました。

調べてみると諸説あるようですが、これらの12文字は、もともと日付や方角を表す表現で、農業をする際の暦であったとの説があるようです。十二支の「子」は「孳(し)」という文字から来ており、成長する草木(「茲」)が子孫を増やそうとしている状態を表し、昨年の「巳」は、草木が既に成長しきった状態を意味します。今年の「午」は、草木としては最盛期を終えて衰えを見せ始めた状態(相場の格言でも「辰巳天井、午尻下がり」など言うのも納得)で、次なる実りへの変化点、「午」以前で芽吹きから繁茂までを、以降で、実る状態や熟した状態、更には土にかえる状態などを表しています。そして、それらを多くの人たちに親しみを

もって使ってもらうために「動物」に当てはめたため、そもそもの意味を示す漢字でありながら動物の名前の読み方になっているのだそうです。

さて今年、午年だからこそ自分の背中を押してくれる「何か」があるのか考えてみました。午年は「変化を恐れず新しい挑戦に踏み出すパワーを秘めた年」とされ、「行動力を促す年」とのこと、自分自身においても事業運営においても挑戦する気持ちを持って行動せよ!と言われているのだと感じております。

また、「うま(馬・午)」つながりで調べてみるとこんな話を見つけました。孔子一門の「司馬牛」という人が、自分には相談できる兄弟がないことを悩んでいたら、同じ門下生の「子夏」が言うに、「兄弟がないというが、礼儀と真心をもって人に接し、社会生活の調和を保つていけば世の中の人々は兄弟のように親しくなる」と。ご存じの方も多いと思いますが「四海兄弟」(「豊臣兄弟」ではありません)といわれる論語の一節で、そもそもの意味は「皆が誠心誠意、礼儀正しく接すればどこにいても皆が兄弟のよう

に仲良くなれる」ですが、拡大解釈すれば、何事においても誠意をもって行動することが、チーム内の協力関係を強固にすることにつながり、またお客様からの信頼を得ることにつながる、などになるのかと思います。自分ひとりで生きていくのではなく、あるいは事業運営をしていくのではなく、周りの方々に助けをお借りしながら、場合により巻き込みながら前進していくこと、そして、社会のお役にしっかりと立ちなさい、との示唆に見えてきております。

「うま」に因んで新年の抱負を考えてみましたが、「変化を恐れず新しいことに挑戦する想いもって行動すること」という今年の万人共通のチャンスを活かすためにも『「四海兄弟」の意識をもって社内外の関係する方々と接し、社会から必要不可欠な存在といわれるようになること』を念頭にスタートしたいと思います。

本年も、何卒よろしくお願ひいたします。

**日立埠頭(株)取締役社長**

## 働きやすく住みやすい、 人が集まる茨城を目指して

副会長 塩谷 智彦



新年あけましておめでとうございます。

年末年始と穏やかな天気が続き、清々しい新春をお迎えのことと存じます。

2025年は女性初の総理大臣誕生とトランプ関税がトップニュースでした。国内では相変わらずの物価高、特に主食の米がどんどん値上がりまた品薄になり備蓄米の吉米、吉吉米、の放出。あらゆるものが値上げ又は同額でも小さくなったり内容積が少なくなったりと困った状況が続いておりますが、この話題は、同じ副会長のカスミ塚田社長にお任せするとして。国内経済は円安傾向にあるも実体経済とは裏腹に株価が5万円を突破、過去最高を塗り替えてます。

しかし、日本の一人当たりの国内総生産はドル換算で33785ドルで、韓国、スペインにも抜かれ過去最低の24位に。もちろん円安の影響もありますが、IT化の出遅れによる生産性の伸び悩み、競争力の低下が大きな要因と考えられます。私共中小企業は、IT、DX、AIを駆使して労働生産性を上げなければ、伸び悩みによる競争力の低下はそのまま企業の減退につながり過去の延長線上に未来はないという言葉通りになってしまいます。

さて、昨今呼ばれている女性活躍についてですが、女性活躍推進法が2026年4月より改正され、従業員101人以上の企業に、男女賃金格差と女性管理職比率の公表が義務付けられます。昨年、私が支部長を兼任している、土浦・つくば・石岡支部主催にて女性活躍推進セミナーを全4回にて開催いたしました。31名の方に受講いただき活発な意見交換、男性役員、管理職に対して意見具申等大変有意義なセミナーになりましたが今後、どのように発展的継続できるのか熟慮中ではあります。将来的には茨城経協女性部会のような形に出来ればとも考えております。

首都圏においては、女性管理職のみならず女性経営者が増えている状況の中、我が茨城県にも、ホテル日航つくば：石田社長、海老根建設：柳瀬社長、フォージテックカワベ：河辺社長、新熱工業：大谷社長など大変優秀で頑張っておられる女性社長がいらっしゃいます。女性リーダー候補、経営者候補の方々にはこの方たちの背中を追いかけ更なるご活躍を願ってやみません。

日本は地震に限らず、毎年自然災害が発生しております。東日本大震災からは15年が経ちま

した。いつ来るかわからない次の地震、災害に備えなければなりません。また50年、60年を経過老朽化したインフラの再整備・見直しも急務になってきました。

弊社は非常用発電装置のメーカーであります。災害発生時の停電対応及び減災対策、インフラ再整備の一つの要としての役割を全社員が肝に銘じて業務を行っております。人間個人も企業も、健康第一／安全第一です。

年末に国が策定した地方創生戦略があります。『強い経済』、『豊かな生活環境』、『選ばれる地方』の3本柱ですが我が茨城は関東圏ですので最後は『選ばれる地域』と読み替えれば全てには当てはまっていると思います。働きやすい茨城、住みやすい茨城、人が集まる茨城、を目指して地方創生のリーダーになれる力は十分にあると思います。

猛烈な速さで時代が変化する中、会員企業様にとって実のある茨城経協を目指し、諸先輩方とともに邁進する所存であります。輝かしい新年を迎え益々のご繁栄を御祈念申し上げ、新春のご挨拶とさせていただきます。

今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(株)東京電機 代表取締役社長

## 企業価値を高め 地域の発展に貢献する年に

副会長 安光 和典



新年あけましておめでとうございます。新しい年を皆さんとともに迎えられたことを嬉しく思います。

振り返ると、国内外ともに製造業・建設業が低迷し、我々鉄鋼業界を取り巻く環境は未曾有の危機的状況が継続しています。中国経済の減速による需給ギャップ拡大を受けた過剰生産、輸出増加は構造的であり改善の兆しがなく、また米国関税は、当初より引き下げられたとはいえて従来にない高関税となっています。

本年も、保護主義への転換、相互関税の発動など、政治と経済の相互作用が強まるで不確実性が増しています。鉄鋼需要の見通しについては、インド、米国で需要の増加が期待されますが、日本国内では人口減少や製造業の海外移転等を背景に、需要の減少傾向が続く見通しです。供給面では、中国国内での高水準の生産と積極的な輸出姿勢が続いており、通商摩擦の拡大も懸念され、世界的な鉄鋼供給過剰構造が解消される見通しが立っておらず、今後も厳しい経営環境が続くと想定されています。

昨年12月には「2030 中長期経営計画」で、一段と厳しい経営環境下においても、国内事業のさらなる収益基盤強化と海外事業でのグローバル成長戦略に取り組み、世界No.1の鉄鋼メーカーへの復権を果たすことを公表いたしました。

国内製鉄事業の一端を担う鹿島地区は、本年も安全・環境・防災・品質・コンプライアンスといった製鉄所運営の基盤を最優先に、より一層のコスト競争力を追求すべく安定生産に取り組んでまいります。安定生産体制を盤石なものとし、世界トップのコスト競争力に拘り、より良い製品を世界のお客様へお届けすることで社の収益に貢献していきたいと思います。そしてそれを支える人財の育成にもしっかりと取り組み、当地区で働く従業員が一丸となって課題の解決、そして企業価値を高めていくよう取り組んでまいります。

我々は地域の皆様に支えられてこの地で生産活動ができるという感謝の気持ちを忘ることなく、直営・協力会社を含めた従業員一人ひとりが、自ら

の役割を確実に全うしていきます。そして東日本製鉄所鹿島地区が皆様から信頼され頼りにされる製鉄所として、地域の発展に貢献して参る所存です。

昨年、弊社硬式野球部は、都市対抗野球大会および日本選手権大会の2大会出場を果たしました。また元弊社蹴球団である鹿島アントラーズが9シーズンぶりにJ1リーグで優勝を果たし、水戸ホーリーホックはJ2初優勝、J1昇格が決まり茨城県にとっても歴史的な一年となりました。本年は、9月に鹿島神宮の12年に一度の式年大祭御船祭が斎行されます。本年もこれまで以上に、スポーツ・信仰・そして産業の持つ力を融合させ、茨城県を支え益々の発展に寄与してまいる所存です。

結びに、会員企業の皆様、そして皆様の大切な方のご健勝・ご多幸を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

**日本製鉄(株)執行役員**

**東日本製鉄所 副所長**

**鹿島地区代表**

# おかげさまで65周年

副会長 塚田 英明



新年明けましておめでとうございます。

皆さまには、新年を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

2026年令和8年の干支は、  
ひのえうま  
丙午です。午年にあたるこの年は、情熱や変化を象徴する年とされ、丙午は十干の「丙」と十二支の「午」が組み合わさった干支のひとつで、60年に一度巡ってきます。

「丙」は十干のなかで三番目にあたり、陽の火をつかさどる文字です。太陽のような明るさ、情熱、決断力を象徴し、生命の力強い成長段階を表します。また物事を外に大きく広げていく性質があり、リーダーシップやエネルギーを意味する重要な干だと言われています。

弊社は本年創立65周年を迎えることができました。ひとえに、地域の皆さまのご支援の賜物と深く感謝申し上げます。本年の「丙午」の干支にあやかり、勢いと挑戦に満ちた、飛躍の一年としたいと願っております。

昨年は、引き続き商品原料の高騰や不足、エネルギーやさまざまなコスト上昇などがあり、

経営、生活ともに環境変化はさらに厳しいものが見られました。気候変動による収穫産物の変化は大きく、季節や旬の変化はすでに当たり前になっています。また年間の商品値上げ品目数は2万品目を超え、商品提供のあり方や数量を確保することも抜本的な見直しに迫られています。

少子高齢化もさらに進み、65歳以上の高齢者で「単独世帯」が「夫婦のみの世帯」を超えて、最多となっています。家族に依拠することができない高齢者が増えるということです。一人一人が健康を支えるのは「食」であることに向き合い、また地域のコミュニティとしての店舗の存在価値をもう一度見直すことが重要だと感じています。

本年の事業活動において重要なことは、常にお客さま視点に立ち、その環境変化から日々の当たり前の生活起点で考え方行動することであり、スーパーマーケットとして、生きることの原点である「食」を守り続け、そして店舗が地域のふれあいの場として存在できるようになることだと認識しています。

2026年は、AIの分野で高品質な学習データの枯渇によるAIの進化停滞や、物流業界における特定荷主への物流効率化義務化による物流コストの増加、ドライバー不足のさらなる深刻化が問題視されています。今までの仕事の仕方を見直し、過去のやり方にとらわれず、環境変化に合わせたルールチェンジに取り組みます。

地域の皆さまの食生活が健康的で豊かであることに貢献し、地域の発展と繁栄を願い、地域に深く根差した企業でありたい。環境変化や厳しさは年々増していくますが、これからも時代とお客様に適合できるよう努力をしてまいります。

今年も会員企業の皆さまとの情報交換や情報共有による活発な活動に貢献し、そして当協会の活動が会員企業の皆さまのますますのご発展、飛躍の年であることを心より祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

本年もよろしくお願い申し上げます。

(株)カスミ 代表取締役社長

## 湊川親方(元大関貴景勝)に学ぶ ～原点を忘れず～

専務理事 加藤 祐一



明けましておめでとうございます。

大相撲の湊川親方(元大関貴景勝)の最近の姿をご覧になり、現役時代との変化に驚かれた方も多いのではないでしょうか。現役時代、当たり負けしない体形を維持するために、相当な努力を重ねてきたことは想像に難くありません。引退後、「無理に食べなくてよくなつた」と語る本人の言葉からも、結果の裏にある不断の自己管理の重要性を感じさせられます。

大関昇進後、順風満帆に見えた中で思わぬ試練が訪れます。令和元年夏場所、稽古場では圧倒的な手応えを感じていた矢先、4日目の御嶽海戦で右膝を負傷。途中休場、続く名古屋場所も全休となり、大関から陥落しました。

業績好調な局面ほど、想定外のリスクが潜んでいる——企業経営にも通じる局面ではないでしょうか。

その後、大関復帰を果たすまでの道のりを追ったNHKの番

組を、昨年10月末に偶然目にしました。復帰をかけた重要な9月場所を前に、湊川親方が思い出したのが、埼玉栄高校相撲部の恩師・山田道紀監督の言葉でした。

「一寸先は闇だから、ここで調子に乗ってはいけない。毎日、謙虚にやりなさい」

この言葉を原点として取った行動が印象的でした。湊川親方は、部屋での恵まれた環境を一度離れ、母校・埼玉栄高校相撲部の寮に泊まり込み、2ヶ月間高校生と共に基本を見直す稽古に打ち込んだのです。立場や実績にとらわれず、自らの基礎を徹底的に点検する姿勢は、経営者にとっても大きな示唆を与えてくれます。また、本人は「絶対、結果で恩返ししたいという気持ちが上乗せされた。ただ大間に戻りたいだけっていう考え方だとここまで頑張れなかったのかなと思います」と語っています。

その結果、場所前の不調を覆し、9月場所では12日目に10勝を挙げ、史上最速での大関特

例復帰を成し遂げました。

成功の要因は、奇策や短期的な打ち手ではなく、「原点に立ち返る」という極めて基本的な判断であったと言えるでしょう。

現在、当協会では総務委員会を中心に、第11次中期運営要綱(令和8年度～10年度)を検討しております。その長期ビジョンとして、「真に必要とされ続ける茨城県経営者協会」を掲げました。

環境変化が激しい時代において、事業や施策の選択に迷う場面も少なくありません。そのような時こそ、「誰のために、何のために存在するのか」という原点に立ち返る姿勢が、持続的な成長につながるものと考えます。

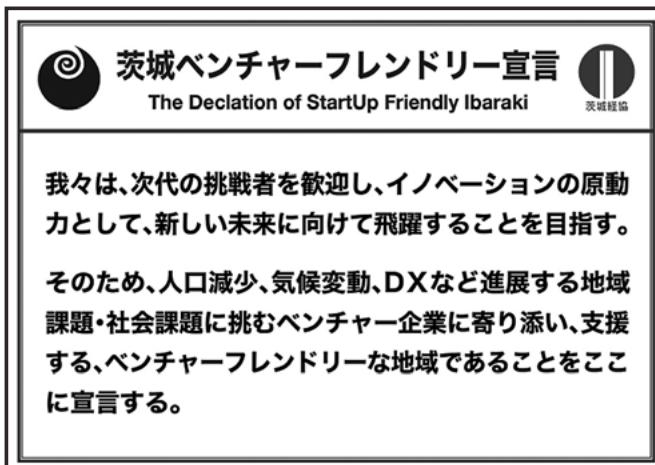
本年も、会員企業の皆さんにとって真に価値ある協会であり続けるため、事業の充実に努めてまいります。引き続き、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 科学技術委員会

「ベンチャーフレンドリー交流会」を開催

12月18日(木)、**科学技術委員会(委員長 澤俊詩氏 キヤノン(株)執行役員 取手事業所長 取手工場長)**は「つくば研究支援センター」にて、茨城県との共催事業「ベンチャーフレンドリー交流会」を共催した。

ベンチャーフレンドリー交流会は、2024年2月29日に茨城県と茨城県経営者協会が共同で「茨城ベンチャーフレンドリー宣言」を発したことを受け、以後、定期的な開催を行っている技術交流イベントです。

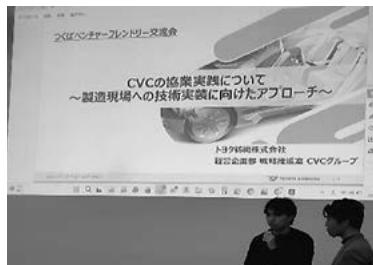


当日は、「オープンイノベーションに取り組む事業会社の発表」で下記の5社が登壇。

講演後は会場を移し、「発表企業 & ベンチャー企業の出展ブース」に囲まれながらの「異業種・異職種交流会」を開催。

各所での名刺交換・情報交換等が行われ、参加企業においては、有用有益な情報収集の場となっていた。

次年度以降もこうした催しは継続していく予定であり、茨城県内外企業を問わず、広く情報発信に努めていく方針です。



トヨタ紡織(株)



大日本印刷(株)



三和ニードルベアリング(株)



恵和興業(株)



(株)鹿島アントラーズ F C



講演会場の様子



発表企業ブースの様子

## 青年経営研究会

水戸ホーリーホック視察研修会など開催

**青年経営研究会（会長 鈴木達二氏 鈴縫工業（株）代表取締役社長）**は、12月9日（火）から10日（水）にかけて、視察研修会、交流懇親会（忘年会）および交流コンペを開催した。本例会では、**研修委員会（委員長（株）セナミ学院 代表取締役 広瀬伸一氏）**が企画立案から当日の運営までを主体的に担い、会員自らが参画する実践的な事業として実施された。

本例会の冒頭では視察研修会を実施し、J2リーグにおいて優勝を果たし、J1昇格という成果を達成した水戸ホーリーホックを運営する、**（株）フットボールクラブ水戸ホーリーホック取締役（前社長・前会長）・沼田邦郎氏**を講師として招聘した。講演では、クラブ経営における明確なビジョンの共有、地域社会との共創によるブランド価値の向上、人材育成や組織マネジメントの在り方など、スポーツビジネスにとどまらず、企業経営にも通じる実践的な知見が語られた。とりわけ、限られた経営資源の中で成果を最大化するための意思決定や、組織全体を巻き込んだ目標設定の重

要性については、参加した経営者にとって多くの示唆を与える内容となった。

また、講演に続いて、選手の練習拠点である城里町七会町民センター「アツマーレ」およびクラブハウスの視察を行った。現場に根差した運営体制や、選手・スタッフが高いパフォーマンスを発揮するための環境整備を実際に見学することで、戦略と実行を結び付けるマネジメントの重要性を再認識する機会となり、参加者一同、多くの学びと刺激を得た。

視察研修会終了後には、水戸市「中川楼」において忘年会を兼ねた交流懇親会を開催。引き続き沼田取締役にもご参加いただき、研修内容を踏まえた意見交換や、各会員が直面する経営課題についての率直な対話が行われた。業種や立場の異なる経営者同士が、経験や課題を共有することで、新たな気づきやネットワークの深化につながる有意義な時間となり、相互理解と親



睦を一層深める場となった。

翌12月10日（水）には、名匠・井上誠一氏の最後の作品として知られ、その設計家人生の集大成が表現されているといわれる県内屈指の名コース、スタート笠間ゴルフ俱楽部において交流コンペを開催した。9時前に開会式を行った後、OUT・IN同時スタートにて競技を開始し、好天にも恵まれる中、フェアプレーを通じたコミュニケーションにより、会員相互の信頼関係と結束をさらに強め、盛会のうちに散会した。



常陸・那珂地区支部

茨城工業高等専門学校見学会



12月12日（金）、常陸・那珂地区（支部長 柳生修氏 コロナ電気（株）取締役会長）は「独立行政法人国立高等専門学校 茨城工業高等専門学校（以下、茨城高専）」にて、「学校見学会」を開催した。当日は、32名（28社）の参加があった。



茨城高専見学会は、柳生修支部長・鈴木明弘校長のご挨拶によって開会。鈴木校長からのご挨拶では、少子高齢化の進展を背景に、学校や企業が直面する課題と教育投資の重要性が示され、将来の社会課題解決に向けた産学連携強化の必要性を認識する機会となった。

また、五十嵐浩副校長からは、本校の教育課程の特徴や、学生の主体的な学びの様子、地域や企業との連携事例などが紹介された。

学校概要説明後は、2グループに分かれての授業参観や学校施設見学が行われた。4年生による課題解決型学習であるPBL実験、ネーミングライツ施設の見学の視察を行い、茨城高専についての理解を深めた。



授業参観・施設見学会終了後は、茨城高専代表教員5名による研究シーズ紹介が行われた。「研究シーズ紹介」では、機械制御系、電気電子系、情報系、科学生物環境系、一般教養部から、多様な研究シーズと研修成果が紹介された。

## 水戸地区支部

コマツ茨城工場見学会を開催  
～人材育成・QCサークル活動に学ぶ“学び合い”的現場を体験～

**水戸地区支部（支部長 幡谷史朗氏 茨城トヨタ自動車（株）代表取締役社長）**は、12月10日（水）、コマツ茨城工場（ひたちなか市）にて、「世界最高峰の生産性を維持し続けるための人材育成・小集団活動（QCサークル活動）に学ぶ」をテーマに、工場見学会を開催した。

冒頭、幡谷史朗支部長が、見学会受け入れにご協力いただいた原田誠一郎工場長をはじめ工場関係者の皆さまへの謝意を述べるとともに、同社が長年にわたり世界最高水準の品質と生産性を維持してきた背景には、「人を育てる文化」と「現場で学び合う仕組み」があることに触れ、「本日の学びが、参加各社の人



づくり・組織づくりの実践につながることを期待したい」と挨拶。

引き続いて、品質保証課の佐藤文哉氏から「コマツウェイ改善活動を通じた人材育成」をテーマに改善活動および人材育成事例発表が行われた。コマツの経営の基本や事業の全体像、

茨城工場の歴史、生産工程、主要製品の紹介に加え、同社の強みの源泉である人材育成の考え方や「コマツウェイ」、小集団活動（QCサークル活動）の取り組みについて説明がなされた。

見学では、実際の生産現場を間近に見学し、現場主義に基づく改善活動が日常的に根付いている様子を体感した。参加者からは、従業員同士の「学び合い」「教え合い」を仕組みとして定着させる工夫や、コミュニケーション力・リーダーシップ力を高める人材育成の考え方について多くの質問が寄せられ、活発な意見交換が行われた。



## 新入会員紹介

### 株式会社 イチゲ電設

■代表取締役 市毛 優至



Data

所在地 / 笠間市鯉淵6732-6  
業 種 / 電気・空調衛生設備工事／土木・建築工事／オール電化及びリフォーム工事／太陽光発電設備工事／電力・通信耐雷設備工事(避雷針・防雷)／電気自動車(EV)充電設備工事／LED照明設備工事

Appeal Point

電気設備工事・空調設備工事・給排水衛生工事・オール電化・太陽光発電などの住宅関連工事など様々な工事を行ってきました。

工事と言っても、やはり人と人とのつながりが基本であり、仕事の結果でお客様に満足して頂き、それがまた次の仕事へとつながっていきます。その後も信頼して選ばれる仕事でないといけません。

工事を依頼をしてもらう、紹介をしてもらう、お客様になってくれた方々に満足いただけるよう「イチゲ電設に頼んで良かった」と信頼関係をお客様と構築していく事が大切だと考えております。

### 株式会社暮らし図

■代表取締役 鯉渕 健太



Data

所在地 / 日立市石名坂町  
1-33-10  
業 種 / 建築設計業・施工業

Appeal Point

私は建築家です。個人住宅、店舗(飲食店やヘアサロン等)、事業所、社会福祉施設等の建築をつくっています。

1984年生まれの41歳です。起業してから現在13年が経ちました。

建築家というと気難しい気質をイメージされるかもしれません、私はそんなことございません。楽しく、新たな出会いが生まれれば光栄です。

私は建築が好きです。自らが好きな分野で起業することができ、今日まで建築の仕事のことが興味の第一で生きてきました。

建築を通じて今後どのような社会貢献・顧客貢献ができるだろうか。また、社会接点づくりや経営に関する学びの機会を得たく、そのような動機をもって入会をさせて頂きました。

皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

# 令和8年度定時総会開催(案)

とき 令和8年6月9日(火) 13:30~18:30  
ところ 水戸プラザホテル(水戸市千波町2078-1)  
予想人数 250名

## 《スケジュール》

1. 開会(13:30) 於: ポールルーム
2. 会長挨拶 会長 笹島 律夫
3. 来賓のご紹介
4. 来賓祝辞 茨城県知事 大井川 和彦様
5. 議事  

|       |                          |
|-------|--------------------------|
| 第1号議案 | 令和7年度事業活動報告の承認を求める件      |
| 第2号議案 | 令和7年度収支決算報告の承認を求める件      |
| 報告事項1 | 会計監査報告                   |
| 報告事項2 | 令和8年度事業活動計画の報告           |
| 報告事項3 | 第11次中期運営要綱の報告            |
| 報告事項4 | 令和8年度収支予算の報告             |
| 第3号議案 | 令和8年度常勤役員の報酬総額決定の承認を求める件 |
| 第4号議案 | 役員の選任の件                  |
- 新入会員のご紹介(令和7年度第3回理事会(10/10)以降入会の会員対象)
6. 記念講演(15:00~16:20)  
テーマ:「経営改革に必要な視点と日立製作所の取り組み」(仮題)  
講師:株式会社日立製作所 代表取締役会長 東原 敏昭氏
7. 定時総会閉会(16:20)
8. 名刺交換タイム(16:20~16:40)  
ポールルームにて、終わった方から交流懇親会会場に移動
9. 交流懇親会開会(16:50) 於: ガーデンルーム
10. 交流懇親会閉会(18:30)

## 今後の事業(視察会、研修会、交流会等)のご案内

当協会では、各種事業を定期的に開催しております。

ご興味をお持ちの事業がございましたら、どうぞお気軽にお申し込みください。

詳細につきましては、当協会のHP (<https://ikk.or.jp/jigyooyotei/>)、または、右記二次元コードより、ご参照ください。

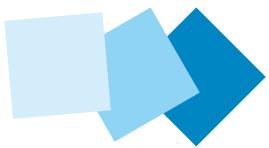
[今後の事業案内]



| 開催日時                         | 事業名        | 内 容  |
|------------------------------|------------|--|
| 2026年2月9日(月)<br>15:30～18:15  | 講演会<br>交流会 | 採用・育成・定着に関する講演会<br>～活躍人材を探る(採用)、育てる(育成)、支える(定着)、伸びる会社の人材育成戦略～        |
| 2026年2月10日(火)<br>14:30～16:00 | セミナー       | 春季労使交渉・労使協議対策セミナー<br>～2026年の春季労使交渉・労使協議に対する経営側の基本的考え方～               |
| 2026年2月13日(金)<br>9:30～16:30  | セミナー       | 第16期 管理職・リーダーのためのマネジメント講座<br>～やる気にさせる<br>“人間関係の問題の取扱い方(TWI-JR)” を学ぶ～ |
| 2026年2月13日(金)<br>13:30～16:30 | セミナー       | ※埼玉県経営者協会との連携事業<br>問題社員対応の実務と戦略セミナー                                  |
| 2026年2月24日(火)<br>13:30～16:30 | セミナー       | 経営者・労務担当者は、これだけは知っておきたい!<br>～事例に基づく職場の労働法～                           |
| 2026年2月26日(木)<br>13:30～15:30 | 見学会        | 藤井建設(株) 事例発表・見学会<br>①事例: DX推進による慣習の打破<br>②見学: モノづくり創造センター            |
| 2026年3月2日(月)<br>13:00～16:00  | 見学会        | 清真学園高等学校・中学校見学会<br>～次世代・地域を担う、若者たちの教育現場に学ぶ～                          |
| 2026年3月4日(水)<br>13:30～17:00  | セミナー       | ※埼玉県経営者協会との連携事業<br>“ゼロクリック” 時代に対応するWebマーケティング戦略                      |
| 2026年3月5日(木)<br>12:20～20:00  | 講演会<br>見学会 | 第8期いばらき塾<br>～常陸佐竹氏の足跡に学ぶ<br>“奥七郡からの出発” 常陸佐竹氏の軌跡～                     |
| 2026年3月10日(火)<br>15:30～18:40 | 講演会<br>交流会 | 講演会・交流パーティ<br>生成AIと共に創する、地域の未来と企業経営                                  |
| 2026年3月27日(金)<br>9:30～16:50  | 交流会        | 令和7年度 第8回 会員交流会<br>チャリティゴルフコンペ 於:龍ヶ崎カントリー倶楽部                         |
| 2026年4月6日(月)他<br>9:30～16:30  | セミナー       | 新入社員向けセミナー<br>社会人として必須の職場ルールを学ぶ<br>(※PHP通信教育セット)                     |



# 偏屈爺の甘辛放談④



元茨城新聞社 論説委員長 小沼 平氏

## 2026年波乱の幕開け＝ トランプ政権の暴挙に世界が震撼

2026年が幕を開けた直後の1月3日未明、米国のトランプ政権が南米ベネズエラの首都カラカスなどを攻撃し、複数の軍事施設を破壊するとともに、同国のニコラス・マドゥロ大統領夫妻を拘束し、米国に送還・拉致するという信じられない暴挙があった。「力による平和」「力による現状変更」を提唱し、「国力の弱い国が、強い国に従うのは当然」としながら、世界を弱肉強食の獣の社会に変えようとするかのように、この「ならず者」が今、世界中を恐怖と混乱に陥れつつある。トランプは大統領復帰1年目の昨年、一方的な関税を世界の国々に通達。この蛮行からの被害を少しでも抑えようと、わが国はもちろん、欧州、アジア、南米など世界中の国々がこのならず者の機嫌を損ねないようお世辞やおべっか外交を展開、苦慮した。

### ■大国のエゴ、むき出しに

そして迎えた2年目。いよいよ本性をむき出しにしたかのように、世界一の軍事力を背景にベネズエラへの軍事作戦を強行。さらにはキューバやコロンビアなど反米を掲げる南米の国々を力によって屈服させようと威圧している。南米を「米国の裏庭」と称し、中・ロの影響力を排除し、西半球の国々を傘下に置きたいようだ。

加えて「カナダを米国の51番目の州に」「デンマーク自治領のグリーンランドを米国が領有する」ことに意欲を見せるなど、当初は冗談と思っていたが、必ずしもそうではないようだ。グリーンランド領有について米ホワイトハウス報道官は1月6日、「グリーンランドの領有は北極圏における敵の抑止のために重要」とし、「米軍の活用は最高司令官(米大統領)の利用可能な選択肢の一つ」との声明を発表。ベネズエラに続き、力での現状変更を試みる可能性も排除しなかった。

さらに翌7日、今度は米国の国益に反するとして66の国際的な組織や条約などから脱退すると表明。「離脱」を指示する大統領覚書に次々と署名した。この中には気候変動の国際ルール

「パリ協定」の前提となる「国連気候変動枠組み条約」や、世界の科学者でつくる「気候変動に関する政府間パネル」、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントに取り組む国連女性機関、国連人口基金などが含まれている。またベネズエラ関連では同日、ベネズエラの石油取引に関連したとして石油タンカー2隻を拿捕し、その一隻はロシア国籍でロシアは猛抗議している。これらが年明けからわずか1週間の間に起きた事案である。

11月の米国議会中間選挙に向けて、トランプ政権が今後世界に向けてどのような行動を起こすのか予想することは極めて困難であるというのが実状だ。そこには最早、かつての民主主義陣営をけん引した米国姿の片鱗も見られない。

### ■国を挙げて難局打開を

そして、ある意味思考形態が分かりやすいこのならず者以上に、残忍で狡猾なロシアのプーチン、したたかな中国の習近平、さらにはとても国家とは呼べない独裁者・金正恩が支配する北朝鮮などの存在がわが国を取り巻く。こうしたこと考慮すれば、今年1年間を無事、無難に乗り切ることがいかに至難の業か。

物価高や経済対策など内政上のさまざまな問題・課題が山積していることは事実だが、それ以上にわが国がこの異常な環境下にある国際社会の荒波をいかに乗り越えていくのか。外交は高市政権のみに委ねられるような生易しい状況ではなく、国を挙げ与野党一体となって取り組んでいかねばならないだろう。

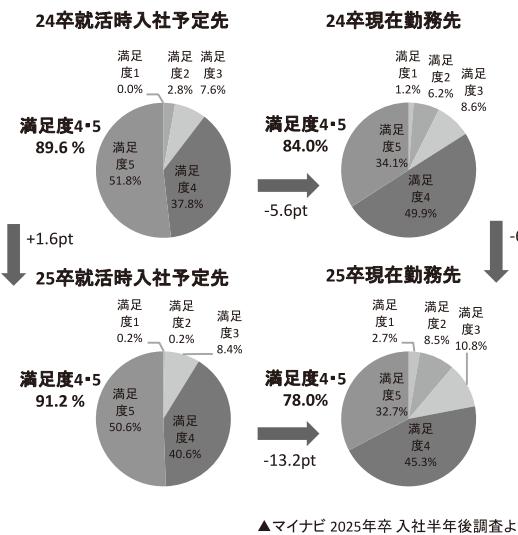
今年は2月の冬季オリンピック、3月の野球WBC、6月のサッカーワールドカップなど、スポーツ・イヤーになるかと楽しみにしていたのだが、そうした思いを正月早々、ドナルド・トランプという1人の男が吹き飛ばしてしまった。この1年間、世界はこの男の行動から目が離せなくなりそうだ。そしてそうした中でも、わが国が戦争に巻き込まれることなく平和であってほしい。年頭に当たり、その思いを改めて強くした。

(2026年1月9日)

今年も3月1日には27年卒採用活動が解禁されますが、すでに企業・学生双方でインターンシップ・仕事体験などを中心に活発な動きがみられます。今回は25年卒新入社員の現在と、企業の26年卒採用を振り返りつつ、間近に控えた27年卒の採用予定数についてみていきます。

## ■2025年新入社員の現在(入社半年後)

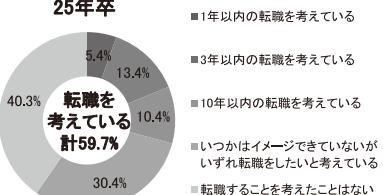
### ●入社前後の満足度



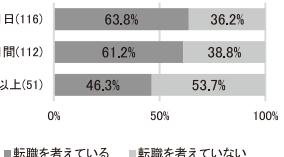
### ●転職意向について

【図1】転職について今どのように考えているか

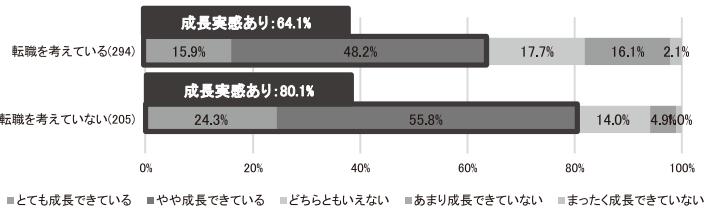
25年卒



【図2】インターンシップ・仕事体験参加状況別でみた転職意向



【図3】成長実感と転職意向の関係性

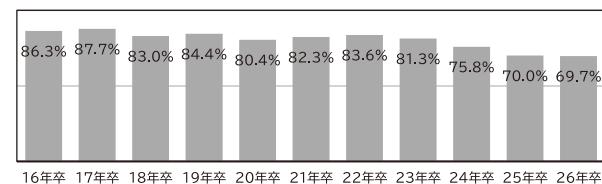


左グラフは24・25卒社会人の就活時の入社予定企業先の総合満足度と、入社半年後現在の勤務先の総合満足度を5段階で聞いた結果です。就活時の入社予定先満足度が高い割合は24年卒の89.6%から25年卒では91.2%と1.6pt増加したものの、入社半年後の勤務先満足度が高い割合は24年卒の84.0%から25年卒では78.0%と、6.0pt減少しました。入社前後での満足度高群の割合の変化をみると、24年卒がマイナス5.6ptだったのにに対し、25年卒ではマイナス13.2ptと、より減少幅が大きいことがわかります。

右では25卒社会人の転職意向について調査しました。「転職を考えている」割合は59.7%(前年調査54.2%)で、前年比で最も増えていたのは「3年以内(前年調査9.7%)」でした【図1】。また、勤務先のインターンシップ・仕事体験の参加状況からみると、5日以上参加していた場合は転職意向が半数を下回っています【図2】。そして現在勤務していて「成長実感」が感じられるほど転職を考えない傾向も、この調査で明らかになっています【図3】。

## ■26年卒採用満足度と27年卒採用予定数

### ●採用充足率(内定者数/募集人数)の年次推移



こちらは新卒採用を実施した企業に、当年度採用の振り返りと次年度採用予定についてアンケートを取った調査結果を経年で比較したものです。

2026年卒の採用充足率(内定者数/募集人数)は69.7%(前年比0.3pt減)で4年連続の減少。下がり幅はやや鈍化したものの、採用スケジュールが変更された17年卒以降、同時期の調査と比較して過去最低の結果となりました。

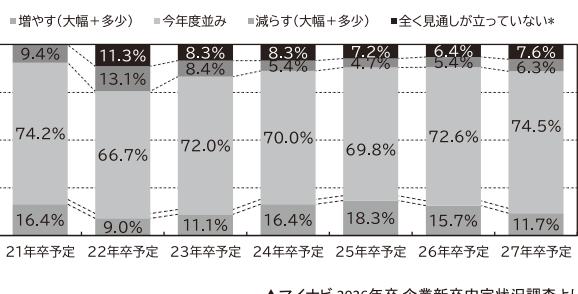
こちらでは取り上げていませんが、2026年卒では上場・非上場企業で比較すると上場(78.0%)・非上場(66.4%)、非上場企業の方が充足率が低く、業種別でみると「金融」の充足率が最も高く(96.9%)、「小売」が最も低い(51.8%)という結果となっています。

また、インターンシップ・仕事体験の実施有無別で比較すると、実施企業は75.3%、未実施企業は60.6%と14.7ptの差が見られました。インターンシップ・仕事体験で学生にキャリア形成の場を提供することを通じて自社の魅力を伝える機会を設けることは、有効だと改めてわかる結果となりました。

次年度の採用予定数を聞いたところ、「増やす」が増加傾向にありました。しかし、26年卒で前年比2.6pt減となり、今年も前年比で4.0pt減少しました。「今年度並み」は前年比1.9pt増加、「減らす」は0.9pt増加となり、採用予定数を増やさずに現状維持、もしくは採用数減とする企業が増え始めている様子が見て取れます。

このような採用予定数を抑制する動きが見られることから、市況感についても底を打たると感じる企業が増え、次年度の採用活動が今年度より厳しくなる、という悲観的な見通しも若干薄まっていると考えられます。

### ●次年度の採用数について



# 揺れ動く国際情勢と2026年の展望： 茨城から世界へ踏み出すための針路

日本貿易振興機構（ジェトロ）茨城貿易情報センター  
所長 河内 章氏



明けましておめでとうござい  
ます。

旧年中はジェトロ茨城の活動  
に対し、多大なるご支援とご協  
力を賜り、厚く御礼申し上げま  
す。

2025年は、世界各地で政治・  
経済の枠組みが大きく揺れ動く  
中、茨城県内企業の皆様にとっ  
ても、変化への即応力が問われ  
る一年であったと推察いたしま  
す。本年もジェトロ茨城は、変  
化する国際情勢を的確に捉え、  
皆様の海外ビジネスの「羅針盤」  
として一層の支援に努めてまい  
る所存です。

## 【2025年の国際情勢の振り返り：

### 激動と好機の交錯】

2025年、国際ビジネスシーン  
において最も大きな関心事と  
なったのは、1月に発足した米  
国トランプ第2次政権による通  
商政策の転換でした。

トランプ大統領が掲げた広範  
な関税措置や、日米貿易交渉の  
再開は、県内の基幹産業である  
ものづくり企業に緊張感をもたら  
しました。ジェトロ茨城が  
2025年4月に実施した県内企  
業への緊急アンケートでは、約  
7割の企業が米国の関税強化に  
対して懸念を表明し、特に相互  
関税の影響が顕在化し始めたこ  
とは記憶に新しいところです。  
これに対し、ジェトロでは「米  
国関税措置等に伴う相談窓口」  
を設置し、専門家によるセミ  
ナーや個別相談を通じて、サ  
プライチェーンの見直しや関税削  
減制度の活用など、具体的な防  
衛策を提示してまいりました。

一方で、茨城県にとって極め  
て明るいニュースとなったのが、  
2025年11月の台湾による輸入規  
制の完全撤廃です。台湾の衛生  
福利部食品薬物管理署(TFDA)  
は11月21日、福島・茨城・栃

木・群馬・千葉の5県産食品に  
義務付けてきた放射性物質検査  
報告書の提出等を撤廃しま  
した。2011年の東日本大震災以  
来、長年続いてきたこの規制が  
科学的根拠に基づき解消された  
ことは、県内の農林水産・食品  
事業者にとって、輸出コストの  
削減とリードタイムの大幅な短  
縮を意味する歴史的な転換点と  
なりました。ジェトロ茨城でも、  
規制撤廃の動きを受け、昨  
年9月には台湾食品市場の販路  
開拓セミナーを開催し、県内企  
業の皆様と共に攻めの姿勢への  
転換を確認いたしました。

## 【2026年の展望：

### 政治の季節と経済秩序の再編】

2026年を迎えた今、国際社会  
はさらなる変化の局面を迎えて  
います。

海外の動きで注視すべきは、  
本年11月に予定されている米国

中間選挙です。第2次トランプ政権の政策評価が下されるこの選挙は、今後の米国の通商姿勢を占う試金石となります。関税政策や環境規制の行方は、引き続き日系企業の北米戦略に直結します。また、アジア太平洋地域では、台湾と米国の貿易交渉妥結など、新たな経済連携の動きが加速しています。これに加え、足元では米国の大統領選に対する軍事行動といった地政学リスクがエネルギー価格や物流網に与える影響も無視できません。

こうした不透明な状況下にお

いて、公的機関であるジェトロの役割は、単なる情報の提供に留まりません。複雑化する通商秩序(EPA/FTA活用や経済安全保障等)への対応を、企業の皆様が「経営の武器」として活用できるよう、伴走支援を強化してまいります。本年も早速、1月のシンガポールや2月の米国市場に向けた食品商談会、また国内輸出商社とのマッチング機会を順次提供して参ります。

「変化の激しい時代」という言葉が常態化していますが、それは裏を返せば、これまでの固定

観念に縛られない新しいビジネスモデルが生まれるチャンスであります。台湾の規制撤廃という追い風を掴み、一方で米中対立や不透明な国際紛争といった向かい風を巧みにいなす。そのための確かな情報とネットワークを、ぜひジェトロ茨城に求めていただければと思います。

結びに、本年が皆様にとりまして、茨城から世界へと大きく羽ばたく飛躍の年となりますよう、心より祈念申し上げます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

#### 日本貿易振興機構(ジェトロ)茨城貿易情報センター

〒310-0802

茨城県水戸市柵町1-3-1 茨城県水戸合同庁舎4階

電話: 029-300-2337 メール: IBR@jetro.go.jp





前回、欧米における移民は、労働移民というよりは、旧植民地出身者の家族を非EU圏から受け入れたり、難民を多く受け入れているのに対し、日本はそれらが少なく、労働移民に絞って門戸を開いてきたことを述べました。外国人は一時的に日本で留学やデカセギ、技能実習をして帰国する存在と捉えられたため、実際には永住者が多数いることが見えにくくなっているとも述べました。欧米のような、移民受け入れ時の言語研修などが作られてこなかったことが「移民制度はない」という言説とつながっています。いわゆる在日の人々の管理から始まった戦後の入管行政は、単純労働は受け入れないとしつつ、日系人、留学生、技能実習生の受け入れ拡大を図ってきました。産業界も柔軟に運用できる労働力を必要としてきました。

2023年に創設された特定技能は、名目上は研修の技能実習と異なり、労働力を入れることを目的に作られました。背景に少子高齢化により日本人だけでは産業が成り立たない見通しの強まりがあります。介護分野でのアジアからの人の受け入れが検討される中で、業種ごとに受け入れ目標人数や必要な技能を設定して計画的に受け入れることが国策として求められ、その結果できた資格が「特定技能」です。

## 日本の移民社会と会統合 その3 日本の労働移民政策の現在地

茨城 NPO センターコモンズ 代表理事 **横田 能洋** 氏

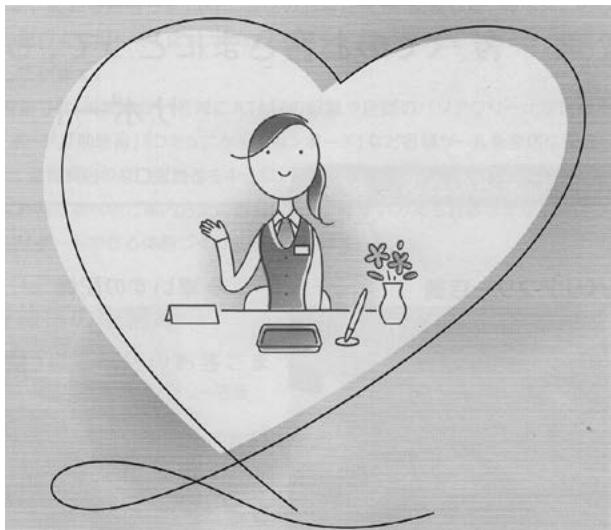
19の業種ごとの受け入れに関しては、それぞれの業種を所管する官庁との連携も必要となり、入管は、法務省入国管理局から出入国在留管理庁となり国の政策官庁に格上げされました。

特定技能の特徴は5年間滞在できる1号の後に試験等の要件をクリアすることで家族帯同し長く暮らせる2号が設けられた点にあります。技能実習生もそのルートに乗ることができます。一時的な労働力としてだけでなく、家族と共に移り住み、次世代も生み育て、人口減少が進み自治体が消滅することが想定されている地域の担い手になれるよう、との方針があると思われます。実際にどれくらいの人が特定技能2号に移行するかで、地域の状況は大きく変わることでしょう。2号に移行する人が増えるということは、結婚、出産、子育てが地域で行われ、かつての日系ブラジル人の受け入れの時のように子どもの教育も課題になるでしょう。

ベトナムは経済成長が目覚ましく、日本との経済格差は縮小しています。その状況で今後はベトナムからの労働移民が減少するとの見方もあります。実際に、ラオス、ミャンマー、モンゴル、カンボジアなど新たな送り出し国を開拓する動きもあります。今後、労働移民の獲得競争が激しくなり日本はアジアの

送り出し国から選ばれなくなるという言説もあります。一方で今後も増えるという分析もあります。母国の大企業をでたのに働く先が限られている場合など日本が選ばれる傾向があるようです。多くの労働移民を受け入れている湾岸産油諸国は建設、ドライバー、メイド、看護師などを期限付きで仕事する形が多く長く滞在できません。特定技能はじめ、日本はスキルを高めていけば長く働けて永住になる道もあります。同じアジアで安心感もある、それゆえ母国での収入が高くなるほど日本が選ばれる傾向があるという分析もあります。けれど、本当に日本がアジアの若者に選ばれる国になるための努力も欠かせないでしょう。今、技能実習や留学、特定技能で日本に来ている若者が、安心して暮らし、スキルを高めて活躍できる人材に育てる体制づくりが重要です。職場でいじめや搾取にあい、多数の実習生が失踪している状況を改善することも急務です。当会は搾取されていた技能実習生を支援団体やユニオンと連携して保護し転職や復職を支援する活動もしています。全国から多くの失踪者が茨城に来てていますので、こうした実習生の仕事や生活に関する相談支援や転職支援をする仕組みを地域レベルでもつくる必要があります。

# 人に優しい銀行をめざして



常陽銀行はどなたでも  
ご利用しやすい銀行を  
めざしています。

 常陽銀行 | MEBUKI  
めぶきフィナンシャルグループ

24



## おかげさまで65周年

### いつもそばに。



あなたがうれしいと、  
私もうれしい。

商品やサービスで  
みなさまの暮らしを豊かにすること。  
カスミはこれからもお客様に寄り添い、  
新たな価値提供で  
より良い暮らしを応援します。

株式会社 カスミ  
〒305-8510 茨城県つくば市西大橋599-1  
TEL.029-850-1850

**KASUMI**

<https://www.kasumi.co.jp/>



HITACHI

## 次の時代に、新しい風を吹き込んでいきます。

時代はいま、新しい息吹を求めて、大きく動きはじめています。

今日を生きる人々がいつも元気でいられるように、明日を生きる人々がいつもいきいきとしていられるように。

日立グループは、人に、社会に、次の時代に新しい風を吹き込み、豊かな暮らしとよりよい社会の実現をめざします。

日立の樹オンライン [www.hitachinoki.net](http://www.hitachinoki.net)

株式会社 日立製作所 株式会社日立パワーソリューションズ 株式会社 日立ハイテク 日立グローバルライフソリューションズ株式会社  
株式会社 日立ビルシステム 株式会社 日立産機システム 株式会社 日立インダストリアルプロダクツ 日立オリジンパーク

25

「日本の半導体」は  
遅れている?  
その思い込みは  
捨ててください。

半導体は次世代へ。進めるのは、レゾナック。

半導体の材料技術で世界をリードしてきたのはずっと私たちレゾナックをはじめとする日本の化学会社です。  
それだけではありません。今、「次世代半導体」開発の鍵を握る存在として、これまで以上に期待を集めています。

化学の力で社会を変える。 **RESONAC**

株式会社レゾナック

山崎事業所 〒317-8555 茨城県日立市東町 4-13-1 TEL 0294-22-5111  
下館事業所 〒308-8521 茨城県筑西市小川 1500 TEL 0296-28-1111  
つくばサイト 〒300-4247 茨城県つくば市和台 48 TEL 029-864-4000  
(先端融合研究所、高分子研究所、計算情報科学研究センター)

茨城県内立地のグループ会社

日本ブレーキ工業株式会社、株式会社レゾナック・テクノサービス、  
株式会社レゾナック・オートモーティブプロダクツ、  
株式会社レゾナック・アプライドカーボン、株式会社 HKSP

レゾナックの  
新オウンドメディア  
「レゾナック ナウ」  
はこちら




**茨城トヨタ**  
  
**CROWN**  
  
 クラウン SPORTS Z

**茨城トヨタ自動車株式会社**  
 水戸市千波町 1887 ☎310-0851  
 TEL 0120-090110  
<https://www.ibaraki-toyota.jp/>

フロンティアへ 人を、地域を、もっと笑顔に **TOYOTA**



26



**J1 優勝**

株式会社鹿島アントラーズFC  
 代表取締役社長 小泉 文明 氏

**J2 優勝**

株式会社フットボールクラブ  
 水戸ホーリーホック  
 代表取締役社長 小島 耕 氏

## 無料経営相談(士業ネットワーク)のご案内

### セカンドオピニオンとしての 経営相談にもご活用ください!

当会では、会員士業(税理士・公認会計士9名、社会保険労務士19名、司法書士8名、行政書士5名、弁理士2名、弁護士1名、不動産鑑定士1名)のご協力のもと、「士業ネットワーク」を立上げております。

会員の皆様が事業を推進していく上での様々な課題やニーズ等が発生した際、お気軽に、専門家である士業に相談ができる体制が整っておりますので、是非ご活用ください。

例えば

- ・年末調整時の定額減税への対応、電子帳簿保存法やインボイス制度への対応のご相談
- ・財務書類作成、法人税、相続税等の会計業務・税務に係るご相談
- ・経営改善・事業承継支援・働き方改革等の経営コンサルティングについてのご相談
- ・業務改善助成金、ものづくり補助金等、各種助成金のご活用、申請方法に関するご相談
- ・メンタルヘルス・ハラスマント対応等を始めとした各種労務管理、賃金制度の整備、人事制度、就業規則の見直しのご相談
- ・勤怠システム導入・クラウド化、テレワーク化等の業務IT化の支援
- ・営業許認可の取得・申請等に関するご相談
- ・行政関係手続きの電子申請のご支援又は代行に関するご相談
- ・外国人労働者の在留資格取得・帰化申請等手続きに関するご相談
- ・土地の売買や役員変更、株式発行等の不動産・商業登記に係るご相談
- ・特許・商標等の取得に係るご相談 etc

ご相談は初回無料です。当会士業会員の方々へのご相談の取り継ぎを行ってまいります。つきましては、お悩み事がございましたら、事務局宛にお気軽にお問い合わせください。

#### 本件に関するお問い合わせ先

一般社団法人 茨城県経営者協会事務局(佐々木・沼尻)

TEL: 029-221-5301

FAX: 029-224-1109

E-MAIL: sasaki@ikk.or.jp